

都小道研だより 第7号

指導者研修会資料 所信「研究は厳しく、人間関係は温かく」 会長 吉田 友信

1 「闇バイトの闇」に立ち向かう

○ 最近、「今、何とかしなければ。」「今、何ができるのか。」と、頭を抱えて毎日悩み続けていることがあります。それは、連日発生している闇バイトを発端とする強盗凶悪事件が連続して起きている状況についてです。事の発端は、主にSNS等に掲載されている「高額バイト募集」「未経験者歓迎」等を見て安易に応募することから始まります。

次に指示役から自身や家族、家の前での写真等を求められ、写真を送らされます。途中でおかしい、やめたいと思っても先に送った写真で脅されて抜けさせないようにされます。顔を見たことがなく、会ったこともない指示役からの言葉巧みで連続する指示に、完全にコントロールを失い、凶悪犯罪に手を染めてしまうという恐ろしい状況です。途中で犯罪であると気付いても恐怖心で抜けられないようにされてしまいます。もはや、闇バイトではなく闇犯罪に加担するしかないように追い込まれることが多いようです。

私たちは道徳教育の関係者として、この社会或いは犯罪者から私たち道徳に携わる者に挑戦状を突き付けられているような気さえすることがあります。小岩駅から学校までのフラワーロード商店街を約15分間歩いている朝の通勤時に考えることが、ここ最近のルーティンになっています。

昔から、学校で問題が発生したから、その内容項目に関する道徳科授業を展開しようとするのはタブーとされているように、闇バイトが起きているから道徳教育に力を入れて何とかしようと考えることが必ずしも正しいこととは限りません。ですが、最初から「教育には関係ない。」「その個人の問題だ。」と何もせず、簡単にあきらめるわけにはいきません。なぜなら、私たちには教師として、道徳教育に携わってきた者としての情熱とプライドがあるからです。

生まれつきの犯罪者はいません。誰にも必ずよさや可能性があります。誰でもよりよく生きようとする人格的特性があります。また、犯罪者にも小学生のときがあり、多くの教師や仲間との出会いを通して、多くの学びもあったはずで、ところがなぜ犯罪者になってしまうのだろうと考えた途端、閃光が走りました。それは解説の次の箇所を想起したからです。「児童が今後、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。」(学習指導要領解説 17・18 頁引用) という部分について十分な力を定着させることができていないという問題です。今後の課題として、道徳的価値は、価値理解、人間理解、他者理解と共によりよく生きる上で大切であることを十分に理解できるように力を入れていく必要があると考えます。

さらに、児童が人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものとして「道徳科の学習は、『人生いかに生きるべきか』という生き方の問いを考えると言い換えることができ、道徳科の指導においては、児童のよりよく生きようとする願いに応えるために、児童と教師が共に考え、共に探求していくことが前提となる。」(解説 106 頁引用) ということをさらに強調していく必要を感じる今日この頃です。たとえ「微力」でも道徳教育を「無力」と思うことなく、共に立ち向かっていきましょう。

2 関小道研との連携

【第 60 回関東地区小学校道徳教育研究大会栃木大会】

・栃木県の会長から電話があり、10月末日までに令和8年度栃木大会の分科会の希望を出すよう依頼がありました。2年後の発表なので、組織も人員もましてや研究内容も想像が難しいとことではありますが、東京都として例年の発表に関連の分科会を見て出しておきました。ご了承ください。あわせて、千葉大会がまだ終わっていないことへの配慮について一言お伝えしておきました。